

篠山市への 視察研修を終えて

二月二十四日、未明から雪が舞い降りる荒れた天候の中、平成十九年度の先進地視察が篠山市にて行われました。

篠山は古くから京都と山陰・山陽を結ぶ要衝の地であり、江戸時代には幕府により



大阪城の豊臣氏と西日本の諸大名を分断する軍事上重要な位置づけがなされ、丹波篠山藩六万石の中心地として栄えてきました。

城下町を貫くように京街道（近世の山陽道）が引き込まれ、街道沿いに商家が配されています。そのため他の保存地区と異なり、国指定史跡篠山城跡、その周辺に町割された旧武家町、旧商家町という対照的な二つの趣があります。

保存会の活動内容を伺うと、地区内の六つの自治区からそれぞれ二名、計十二名の役員が選出され、毎月必ず定例の役員会を開催されています。役員会では補助事業実施物件の選考に始まり、現状変更行為に関する協議、まちの活性化に関する検討など、数々の協議が活発に行われています。

各自治会から申請され

た保存対象物件について優先順位をつけ、順に補修を行っておられ、これにより保存事業を始めてから地区内で荒廃したお宅は一軒も無いとの事でした。また、現篠山市長は保存活動に協力的で、厳しい財政の中、一定の予算を確保していただき感謝しているとお聞きしました。

研修に参加して、行政任せでは無く、自分達で保存活動を活性化させて底辺から動かし、住みよい金堂地区になるように今後も活動していきたくと強く思いました。

（城 誠人）

金堂の歴史 再発見

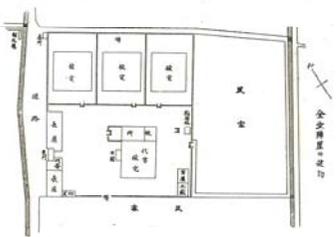
大和郡山藩金堂陣屋

金堂集落のほぼ中央、旧外村繁家の西側にある稲荷神社の周辺一帯には、江戸時代に大和郡山藩の金堂陣屋がありました。

大和郡山藩は、貞享二年（一六八五年）に下野国（現栃木県）から本多忠平が転封され十二万石が与えられました。このうち近江国内の領地は、神崎・蒲生・浅井郡の五十一か村、四万石です。

五個荘地区では金堂・石馬寺・川並・北の庄（宮荘）・五位田・和田・清水鼻の七か村が含まれていました。郡山藩はこの飛び地の支配のため、元禄六年（一六九二年）金堂に陣屋を置きました。

陣屋には代官一名、手代二名、書役一名程の役人が駐在し、徴税や農業振興・治安維持・訴訟対応等に当たりました。『近江神崎郡志稿』に掲載された陣屋の図面には、あきんど通りに面して西側に長屋



門、屋敷南側に役所を兼ねた代官役宅、北側に役宅三棟、東側に稲荷神社と牢屋などが描かれています。

大和郡山藩主は、享保九年（一七二四年）に柳沢家に代わりましたが、陣屋は引き継がれました。明治維新の廃藩置県により明治五年（一八七二年）に陣屋は廃止、建物は取り壊されましたが、長屋門は西隣の勝徳寺に移され、門の一つは五個荘中町の齡仙寺に移築されたと伝えられています。

（林 純）

会員さんこんにちは

まちなみ保存地区先進地視察研修に参加して

塚本 由雄

篠山市への町並み保存地区先進地視察研修が二月二十四日に行われました。

「篠山伝統的建造物群保存地区」は篠山城跡の周辺に旧武家町・旧商家町の町割を残しており、城下町として歴史的風致を今日に伝え、価値が高いと評価されて、平成一九年二月に「美しい日本の歴史的風土一〇〇選」に選ばれています。

当日は悪天候のため



地区内の視察研修・自由散策が十分にできず残念でしたが、気候の良い季節にもう一度訪れ、旧武家屋敷町・町屋風旧商家町等、城下町としての風情を残す町並みを散策し、今回昼食に頂いた美味しい山菜郷土料理をまた食べたいと思います。

先進地視察研修に初めて参加した私には「篠山まちなみ保存会」の方々の郷土愛溢れる話し振りから、ボランティアでありながら熱意ある活動振

が感じられました。

「金堂まちなみ保存会」も平成七年発会以来今日まで、西村会長はじめ会員の皆様が先人から受け継いだ熱意と努力でまちなみ保存に邁進して来られました。深く敬意を表すとともに、会員皆様のご活躍と保存会のご発展を祈念申し上げます。

かじやの里の保存活動

亀山 芳香

日ごとに寒さもゆるみ、ようやく春めいてまいりました。金堂のみなさまには、いつもあたたかくお迎えいただいで、大変うれしく思っています。

先日、東近江市佐野町にある「かじやの里の新兵衛さん」を訪れる機会がありました。

この施設は、初代能登川町長の田附新兵衛氏邸を、旧能登川町社会福祉協議会が買い上げて改修し、平成一七年に開設された小規模多機能型居宅

介護事業所です。年をとっても住み慣れた町で暮らせるように、地域介護の新たな取り組みが展開されています。

主屋の南面には一五〇坪の見事な庭園が広がっていました。どこかで見たことのある雰囲気、聞けば花文造園さんの先々代の作庭でした。掘りが深く大きな石を配した高低差に富む庭園は、旧中江邸の庭とよく似ていました。立ち上げた当初は、庭園をどう守るのが大きな課題であったそうです。

しかし、レイカディア大学で剪定技術を学んだ卒業生や、地元住民の有志を中心に「新兵衛さんを守る会」が発足し、地域のボランティアで庭園の管理や清掃を続けています。さらに、庭園を登録記念物（名勝地関係）の候



補物件として申請し、現在滋賀県が調査中だそうです。

金堂まちなみ保存会でも、旧中江邸の庭の手入れをしています。ダイナミックな庭も、金堂の町なみの魅力の一つです。そして、東近江市内にはまだまだ鈍穴（どんけ）の流れをくむ庭があると思います。鈍穴流の庭を継承していくため、そうした特徴的な庭のネットワークを築くことで、さらに金堂の町なみの魅力に磨きがかかると思います。